もー本当ありえない！あいつも食べちゃったらよかったわ
みおもそう思うわよね？
そうだねえそんな事するなんて食べられても仕方ないよ
私ならもっと大事にするのにそれにしてもまきちゃんに食べられたの…羨ましい…
うん
うん
ちょっと飲み過ぎたかな…
コク、コク、
あれ…？
私お皿の上…？
まきちゃん？
んー美味しそう！
お酒には小人よね
私は…？そっか…小人だから食べられるんだった
わっ 待って！ まだ心の準備が
逃げちゃダメよじっとなさい
？
私 なんともない？

美味しそうに育ってるわね
あんた達は今日私に食べられるために育てられたのよ。知ってた？

って
小人に話しかけるなんて…
呑みすぎたかな

ぐっ

さくっ

ふぇ

次はあんたの番だから。
そこでよく見てなさい

あぁっ あの子食べられちゃう

少し苦しい
だろうけど

観念なさい

私…!?

え

ドキッ

パク

あっ…

ドッ ドッ ドッ ドッ ドッ ドッ ドッ ドッ

ゴクン
あ…
どう？私の栄養にされたくなった？
はぁ
はぁ
食べて
食べてほしい
クスクス♡なぁにその顔。いいわ
あんたは優しく呑んであげる…♡
ゴネュ♡
ッ——♡
あ
あ
あ
うぅ ここから見るとやっぱり怖い…
私 呑まれる…っ さっきみたいに
入っちゃった
これ以上行ったらもう引き返せないよね
終わっちゃうよ
でも…

あっい…っ
心臓の音が聞こえる…
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
ズル
ズル
ズル
はぁ
はぁ
私 本当に
体の中に居るんだ

あっ

ポチャ・ン

わ…すご…もう完全に戻れない…
真っ暗の中でひとりぼっちだ…
でも不思議と心地い…

あ…手足の感覚が 無くなってきた…意識も―
でも、まきちゃんの中だから いいの―
ブク
ブク
ブク…
グル グルル グル

うーん…
まきちゃん
プニ
ふふ
なんの夢見てるの
END